

『社会で活躍する力と学士力』について

保育・教職センター

目 的

教職および保育・福祉職の就職先採用担当者からみた本学卒業生の学士力を明らかにする。

方 法

調査方法：学士力についてアンケート調査を実施、WEBでの回答とした。

調査内容：質問項目は、一般教育科目において身に着けるべき「学士力」について6項目、キャリア科目において身に着けるべき「学士力」について3項目、専門教育科目において身につけるべき「学士力」について2項目、計11項目とし、「卒業生は現在、以下の能力や知識をどの程度身につけていますか？」という問いに対して、「1.できていない」「2.あまりできていない」「3.どちらともいえない」「4.ややできている」「5.できている」の5件法で回答を求めた。

実施時期：2026年1月～2026年3月

対 象：卒業後3年目までの就職先である小学校（22校）およびこども園（40園）幼稚園（51園）・保育所（88園）・施設（65園）の採用担当者とした。

結 果

就職先の回答結果は、図1、図2に示した通りである。回収数は、2024年度は29件であったが、2025年度は52件に増加した。結果、相手の意見を丁寧に聞くことや自己の良心や法規・社会規範の遵守に関する内容については能力があるという回答の傾向がみられ、これらは昨年度と同様であった。一方、全体の項目を通して「できていない」「あまりできていない」との回答が2024年度と比較して増加しており、特に獲得した知識・技能の活用と課題解決に関する能力と、既存の知識を活用して新しい価値を生み出すことに関する能力については、他の項目と比較して、その能力を獲得しているとは言えない傾向が示唆された。

卒業生の回答結果は、図3、図4に示した通りである。回収数は、2024年度は16件であったが、2025年度は9件に減少した。結果、全体の項目を通して「とても多い」「多い」の回答が2024年度と比較して増加していた。また、相手の意見を丁寧に聞くことや自己の良心や法規・社会規範の遵守に関する内容については能力があるという回答の傾向がみられ、これらは昨年度と同様であった。一方、全体の項目を通して「とても多い」「どちらともいえない」の回答が2024年度と比較して減少していた。また、獲得した知識・技能の活用と課題解決に関する能力と、他者の立場を理解し、尊重しつつ、自分の意見を主張することに関する能力については、他の項目と比較して、その能力を獲得しているとは言えない傾向が示唆された。

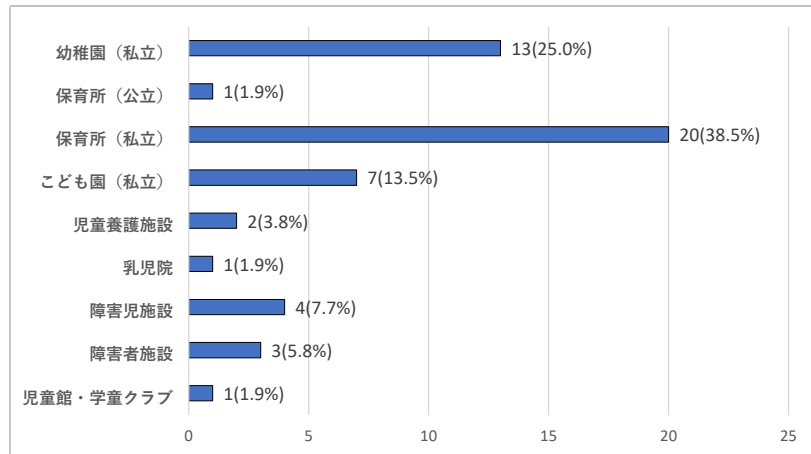


図1 就職先における施設種別ごとの回答数（N=52）

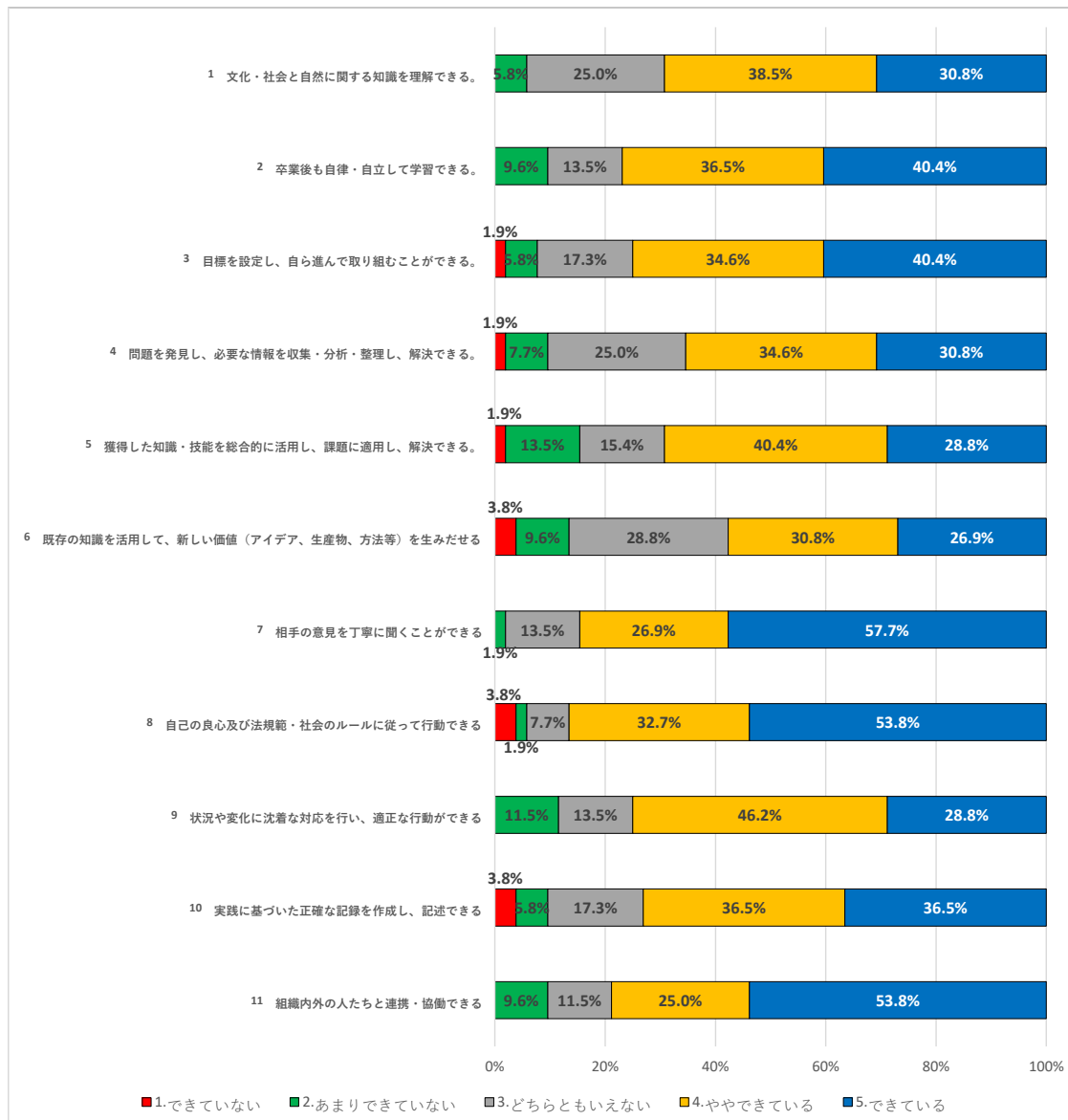


図2 就職先の採用担当者からみた卒業生の学士力について（N=52）

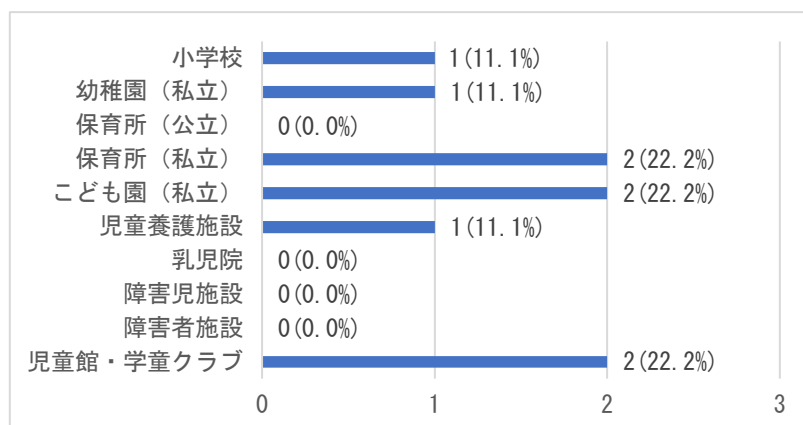


図3 卒業生における施設種別ごとの回答数（N=9）

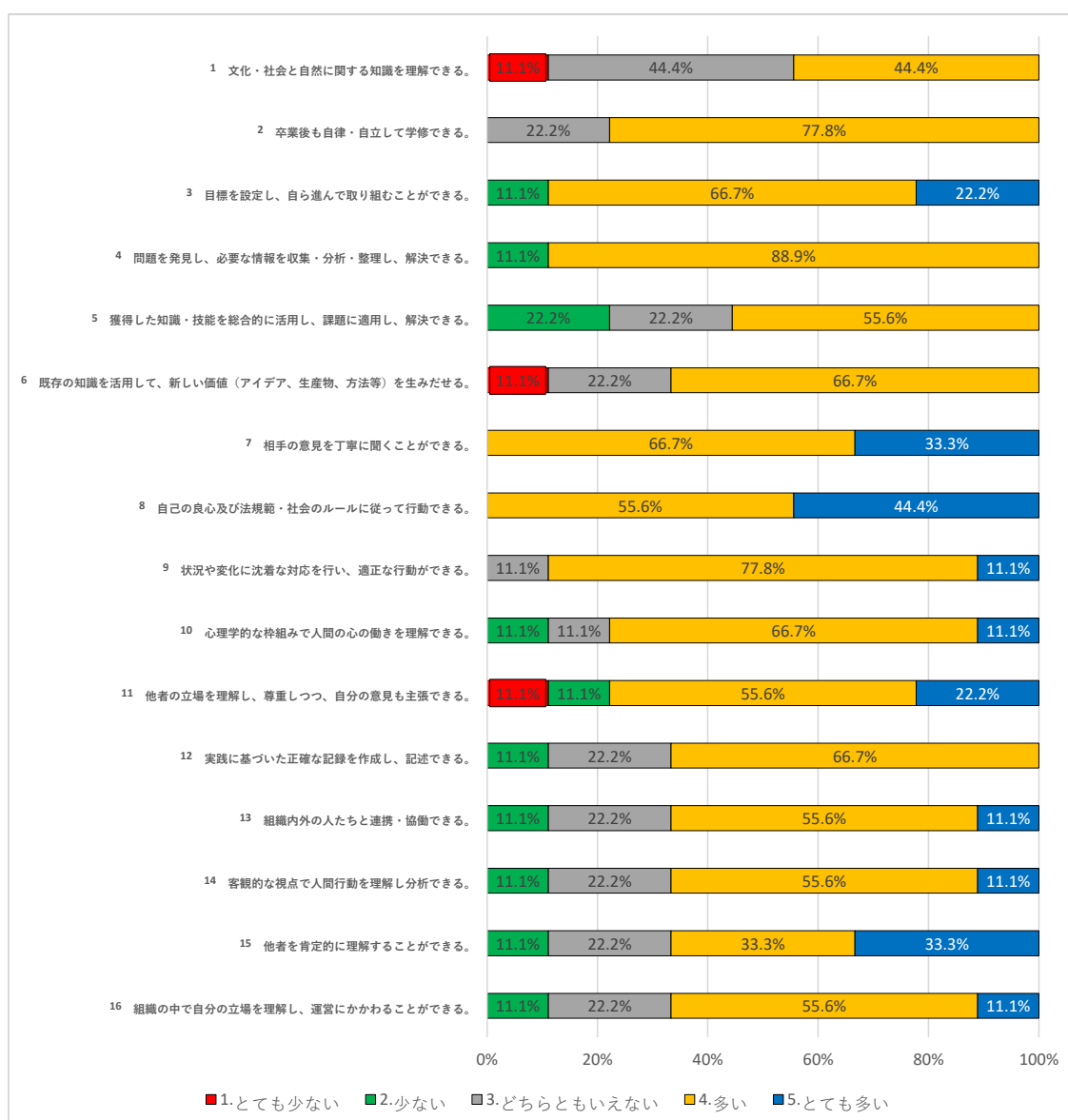


図4 卒業生が思う自身の学士力について（N=9）